

待ちに待った給食
米粉パン 海草サラダ
豆乳コロッケ
肉団子のスープ

ほぼ日刊 夢の華
c^カa^ラr^ッa^ト

第805号

神町中学校 夢色通信社
令和3年2月2日

和牛ガールズ

日曜日、夢色通信社のムネランチ会長は、天童の野川食肉センター「週末びっくり市」に行った。すると、『「和牛ガールズ」が育てた肉を販売しています』とのアナウンスが流れてきた。さっそく食肉売り場に足を運ぶと、何と、そこで牛肉を販売しているのは村山産業高校の3年生5人であり、その1人が神町中学校卒業生の保科星藍（せら）さんだった。



保科さんたち農業経営学科3年の5人は、「景満（かげみつ）号」の飼育に挑戦し、全国の農業高校の生徒が競う第4回和牛甲子園に山形県から初めて参加し、取組評価部門で優良賞に選ばれたのである。彼女たちは超音波診断で肉質を調べ、状態に応じて飼料の配合を見直しながら丹念に景満号を育てた。夏には、血を吸うハエ「サシバエ」が大量発生したため、蚊帳（かや）を設置するなど牛にストレスがたまらないように工夫したという。課題にぶつかるたびに自ら考えて解決策を探り、和牛1頭を育て上げた姿勢が高い評価を受けた。

ムネランチ会長が「すき焼きにはどの肉がいいですか？」と聞くと、保科さんは「この肉がおいしいですよ。」と、お店の人のようにお肉を包んでくれた。また、「何を一番頑張りましたか？」との質問には、「ハエたたきですね。ハエは牛の1番のストレスですから。」と笑いながら答えてくれた。小さい頃からの夢だった動物園や観光牧場で働くために、高校卒業後は動物専門学校に進み動物飼育を学ぶつもりだという保科星藍さんから、神中生にメッセージが届いている。

神町中学校の皆さん、こんにちは。私は、村山産業高校農業経営科に入り、農業を学んでいます。3年間牛の飼育に携わり、出産からお肉になるまでを実際に体験して学んできました。景満（かげみつ）は、私が1年の時に出産を手伝った牛で唯一のオスだったこともあり、大切に甘やかされて育ちました。ブラッシングをしてもらいたい時には大きな体で立派な角のついた頭を振り回して、甘えて近づいてきます。そんな848kgの甘えん坊をお肉にする。それは、気持ち的にも技術的にも難しいことでした。しかし、先生方や他のクラスの人たち、地域の方々、5人の仲間に助けをもらい、お肉として大会に出すことができました。また、お肉を売ってくださったびっくり市さん、お肉を買ってくださった方、ムネランチ会長様がいなければ、景満はお肉になったのに残り物として扱われたかもしれません。景満がこうしてお肉になっておいしいと皆を笑顔にできたのは、いろいろな人に支えてもらい愛されたからです。これまでやってきたことは、1人では決してできないことです。食べられるためにたくさんの試練を乗り越えてきた食べ物たち。皆さん、ご飯を残してはいませんか？ おいしく毎日ご飯を食べてますか？ 作ってくれた方、売る人、そして食べ物に感謝の気持ちでこめて、「いただきます」をしていますか？ これさえしてくれれば、食べ物も作ってくれた人も、すごくうれしいです。（村山産業高校3年 保科星藍）

